

浅草寺 diary

名作散歩で親しむ仏教

壬生 真康著

著者は浅草寺寿命院（東京都台東区）住職で、2005年から浅草寺の教化部執事を務める一方、同寺が年10回発行する機関誌『浅草寺』の編集を行う。同誌は、行事案内や関係団体の近況を伝える他、識者による講演や対談などを掲載。画僧による画の連載もあり、好評を得ている。

本書は、『浅草寺』の13年3月号から15年7・8月号までに収録された著者のエッセー24編を補筆、再構成したものである。章立ては「春から夏へ」「夏から秋へ」「秋から冬へ」「冬から春へ」とし、それぞれの季節に応じた四季折々のエッセーがつけられている。浅草の日々の暮らしや出来事を交えながら、生きていくこと、自分の在り方、他者との関係、生死、善悪、人間と自然、災害・紛争などと仏教との関わりを述べる。和歌や俳句、詩、小説の他、カフカやシェークスピアの作品、『論語』など古今東西の名作を引用し、分かりやすく仏教の教えを説く。

仏教の教えを学べるだけでなく、参拝者であふれる浅草寺の日常を身近に感じることができる一冊となっている。

本体価格1500円、公

硯舎（電話090・772

7・8889）刊。

集一エッセーつづる々折四季



名作散歩で親しむ仏教

浅草寺

ダイアリー
diary

浅草寺寿命院住職 壬生真康

浅草発、
心の旅へ

喜笑げやさしい。心が洗われる。
忙しいときに読むと気分が晴れる。
むずかしそうな仏教の語が身近なもの
としてスッと入ってくる——十人
十色の誘惑感が寄せられています。
知らなかつた心象風景に迷いあつ
旅へ……貴方も出かけてみませんか。

公現舎